

せんく 研修ポイント制度 啓発シンポジウムを開催

「選ばれる相談員」を目指す



5氏が登壇してシンポジウムが行われた

全国福祉用具専門相談員協会は12月17日、「福祉用具専門相談員の研修ポイント制度」普及啓発シンポジウム&タウンミーティングを都内で開いた。冒頭、挨拶に立った山下平理事長

は、高齢化問題は都市部で集中すると予測されるとし

たうえで、「福祉用具のサ

ービスは重要であり、介護

者の負担軽減に貢献でき

る。ハードとソフトのコン

ビネーションが大事で、相

談員の質の高いサー

ビスがなされなければ

ならない。研修ポ

イント制度でレベル

アップし、来年以降

の業務に生かしてほ

しい」と、制度活用

を通じた相談員の質

の向上を求めた。

基調講演に立った

前厚労省老健局長・宮島俊彦氏は、現行の介護保険制度においては、「高齢者がこれまで暮らしてきた生活と断絶せず、継続性をもって暮らす支援が弱い」と指摘し、「継続性を維持するために地域包括ケアが不可欠」と強調した。

また、厚労省老健局振興課福祉用具・住宅改修指導官、介護支援専門官の宮永敬市氏は、ケアマネジメン

トにおける課題として、「自立支援のためのマネジ

メントが行われず、『サー

ビスありき』の支援が行わ

れ、利用者の能力を奪って

いるのではないか」と疑問

を示した。さらに、自立支

援に資するマネジメントの

プロセスとしては、「福祉

用具はまず先に検討されな

ければならない」として、

具体例を挙げた。「古い物

に高齢者が行けなくなる

と即座に、ヘルパーに買って

きてもらうという判断をし

てはならない。人的支援は

最後に検討されるべきだ

と強調した。

福祉用具専門相談員に関

する「職業能力の開発・向

上、個人が評価される仕組

みづくりを目指す」と題

したシンポジウムでは、桜

美林大学大学院教授・白澤

政和氏が「研修ポイント制

度によって相談員がレベル

を上げて選ばれるようにな

っていくことが必要」と口

火を切った。次いで神奈川

県作業療法士会会長・渡邊

慎一氏が研修ポイント制度

の概要を説明、日本介護支

未枝保氏は同制度が「相談加わった山下理事長は「優秀でない相談員は、仕事がつた点が重要。ケアマネが来なくなっても良いと思っすらも見えるようになる。素晴らしいシステム」と高く評価した。シンポジウムに

制度を活用したレベルアッ

プを強く促した。助言者と

して加わった宮永指導官は

「福祉用具の効果をエビデ

ンスに基づき検証すること

が不可欠」と、期待を表し

た。